



令和6（2024）年度 第15期とちぎの教育未来塾

第1日〔令和6（2024）年10月12日（土）〕

第15期生 86名



開講式

◆開講あいさつ 総合教育センター所長 大高 栄男

「語り合い 学び合い 高め合う」をキャッチフレーズとし、第15期「とちぎの教育未来塾」がスタートしました。今年度の「とちぎの教育未来塾」は、全4日間の日程で開催されます。第1日は、オンライン（Zoom）により実施しました。開講あいさつでは、未来塾の目的・特徴や研修に臨む心構えについて話がありました。



講話・演習

★「語り合おう！児童・生徒指導の第一歩」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 岸 敏正

★「語り合おう！生徒指導の第一歩」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 釜屋 陽子

校種別に分かれて、生徒指導とはどのようなものか、教職員に求められる資質・能力は何か、これからの生徒指導はどうあるべきか、などを学びました。現職の先生方と学生が、グループを組んでともに語り合い、広い視野で生徒指導を捉える機会となりました。



受講後の声

【現職】

- ◆大学生と意見交換をすることができて、フレッシュな思いと多様な考えを知ることができました。自分自身の児童・生徒指導について振り返ることもでき、とても充実した時間でした。マイナスな表現はリフレーミングでプラスな表現に変えて日々過ごしていきたいと思います。
- ◆「児童・生徒を理解するためにどうするか」を改めて考える貴重な機会を頂きました。自分が普段心がけていることをお伝えしたり、他の参加者の方からの意見を伺ったりしたことで、どんな方法があるか確かめることができ、加えて、それらの方法を実践できるようになってきたことを感じられて嬉しかったです。教員になって5年間で成長できたことを嬉しく思う

と同時に、驕ることなく、今後も気を引き締めて児童と向き合っていきたいと思いました。

- ◆今まで生徒指導と聞くと、問題行動のある生徒への対応のイメージが強く、どこか他人事でしたが、授業や部活動などで生徒と接していることがすでに生徒指導であり、生徒の支援に当たる機会なのだと改めて感じました。生徒とのかかわり方についてじっくり考える機会となりました。

【学生等】

- ◆児童・生徒指導について、教職員になったら、「学校を飽きさせない、誰もが学校に行きたいと思えるような形にしたい」と改めて思いました。また、「5年後、10年後のために今日がある」という言葉が非常に心に響きました。児童や生徒のために行った指導が、たとえすぐに良い効果として現れなくても、将来で必ず役立つはずだと思える芯が形成されました。
- ◆実際に現場で働いている先生方の意見や、自分とは異なる視点の意見などを聞くことができて、自分の考えの幅が広がりました。よりよい児童・生徒指導を行うために、子どものよさや可能性を積極的に見つけ、一人ひとりの成長に繋げていきたいと思えます。
- ◆生徒指導について、「怖い先生が担当している」、「担当の先生が一人で行っている」というイメージがありました。しかし、グループで話し合ったときには、現職の先生も同じイメージを持っていましたが、実際はすべての生徒に対してすべての先生が行うものである、ということを知って安心しました。「生徒指導＝怒る」というイメージがあるのは、私が過ごしてきた学校生活から思ったことであって、褒めてくれたり一緒に喜んでくれたり、相談にのってくれたりと様々な場面で行われているものです。だからこそ「生徒指導」という言葉ではない何か新しい呼び方があってもいいのではないかと思います。

講話・演習

★「一緒に考えよう！学級経営」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 岡 沙弥香

★「一緒に考えよう！HR 経営」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 伊藤 聡

校種別に分かれて、学級・HR 経営の基本的な考え方、学級・HR 経営の実際の事例などを学びました。こんな学級を目指したい、年度初めにはこんなスタートを意識したいなど、現職の先生方がグループ内でリーダー役となり、活発な意見交換が行われました。



受講後の声

【現職】

- ◆児童生徒一人一人を伸ばすことが大切であることを、先輩の先生からのお話で再認識することができました。教師の魅力や大切にしたいことで、「これだけは伝えたい」ということを現職の二人でお話しさせていただきましたが、同じ悩みをもっていたことを知れて、少し嬉しかったです。
- ◆学生の方々のすばらしいアイデアを聞くことができて、とても勉強になりました。自分のクラスは、とても仲が良く明るいクラスです。子どもたちのよさに目を向けて、前向きな学級を作っていきたいと思えます。
- ◆クラス経営の講話や、自分がクラスの担任だったら最初にどのように話すか、将来自分がクラスを担任したときに何を伝えてあげればよいか、何を生徒たちに伝えたいかなど、グループ協議を通して考えることができたことはとても為になったと感じております。私自身、クラスの副担任をしており、自分が担任だったらこう伝えたい、こういった言葉が生徒に響く

のかなど、日々模索している中で、改めて今回の講話や話合いの場で自分の考えがまとまってきたような感じがしました。今回の講話を通して、生徒にしっかり HR の在り方、雰囲気、支え合い、お互いを尊重しあう心などを伝えていきたいと思いました。

【学生等】

- ◆学級経営には、教師の願いや児童生徒の実態など、様々な点に目を向けなければならないことが分かりました。また学級開きを行う際、静と動のメリハリを身につけさせるという話を現役の先生方がしてくださり、とても印象に残りました。些細なことではあると思いますが、メリハリの有無で大きな違いが生まれると思います。実際に教員になった際には、意識していきたいと思います。
- ◆現在教育実習期間で、慣れないことに苦しくなっていたのですが、学級経営の留意点や、コツ、魅力について意見交流をしたり、講話を聴いたりすることができ、大変勉強になりました。そして、前向きな気持ちになりました。来週から、自分にできる範囲で実践してみたいことも多くあったので、志を高く持って、残りの期間も頑張ろうと思います。ありがとうございました。
- ◆学級経営の難しさと、その面白さの両面を知ることができました。辛く悩むこともあると思いますが、そんな時こそ、他の教員を頼ったり、子どもたち自身の意見に耳をよく傾けたりしていくことが大切だと思いました。多様な学級経営を経験し、日々自分自身も成長していけるように前向きに励みたいです。